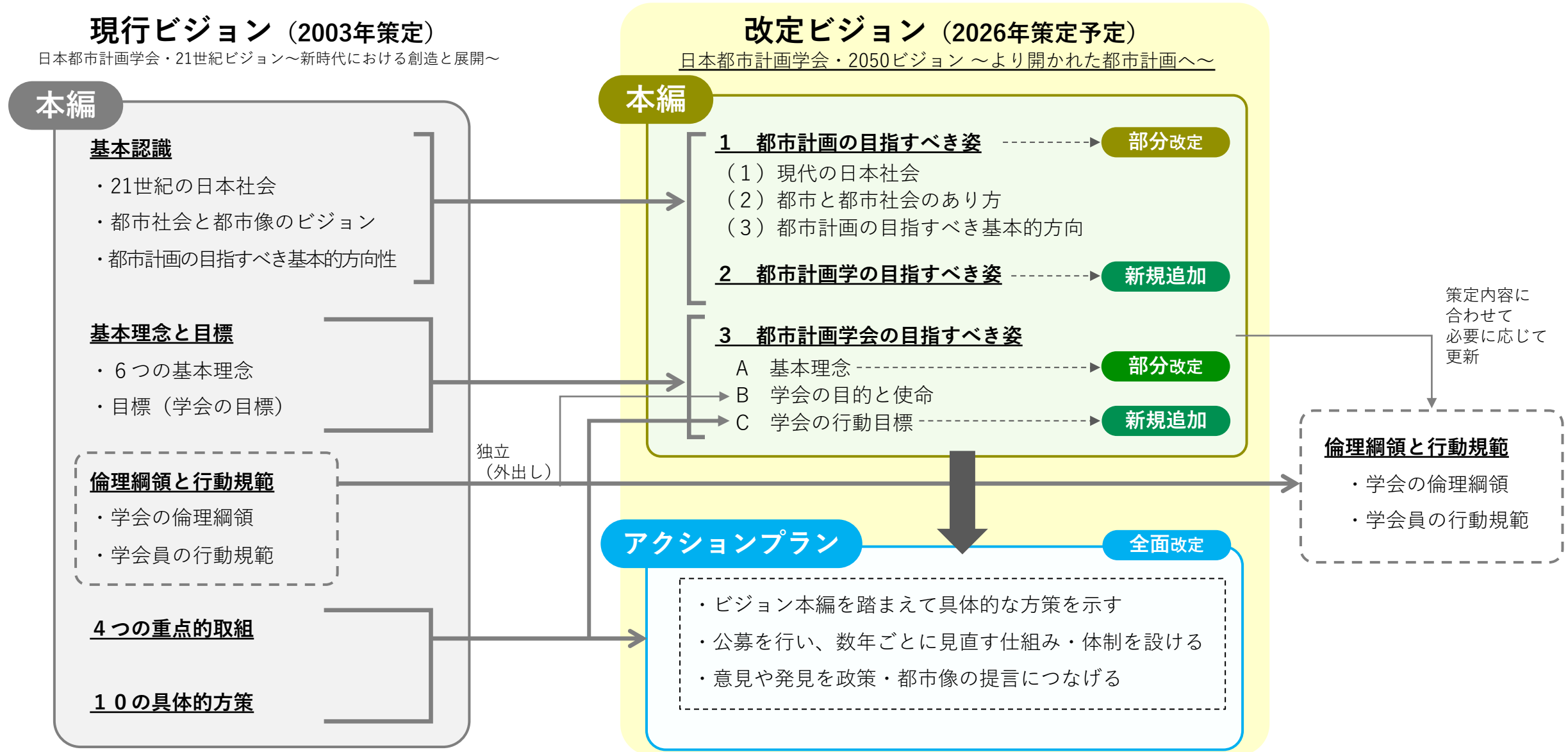


# 日本都市計画学会・2050ビジョン ～より開かれた都市計画へ～（案）について

## 1 現行ビジョンと改定ビジョンの関係



# 日本都市計画学会・2050ビジョン ～より開かれた都市計画へ～（案）について

## 2 2050ビジョンの全体像

### 策定にあたって

#### 社会経済状況の変化

#### 課題の深刻化・明確化

- ・人口減少、少子・高齢化の進展
- ・工業化による経済成長の終息
- ・低成長の成熟社会の到来
- ・地球環境問題の深刻化、等

#### 予測困難な環境

- ・人口の高流動化
- ・情報技術進化の加速
- ・国際的問題の多発、等

#### 改定の基本姿勢

#### 文理を横断する

#### 学際的な知の必要性

- ・課題の深刻化・複雑化、予測困難な環境下で都市を取り巻く問題とその解決が、文理を横断する学際的な知を必要としている

#### 多様な主体の実践と

#### 都市計画の関係性の整理

- ・都市計画をめぐる専門家と非専門家の境界が崩れ、多様な主体が都市計画を担い、「開かれた都市計画」が実現されつつある
- ・広義の都市計画と多様な主体像を「都市計画」の重要な側面として位置付ける

#### より開かれた都市計画へ

- ・都市計画の公共圏の拡大とともに、従来の「全体から部分へ」から「部分から全体へ」波及する取り組みの可能性を開く
- ・全体と部分の計画が結びつくことで、都市の将来像は無数のローカル・ナラティブの星座がつくる星空のような全体像をかたちづくることになる

### 1 都市計画の目指すべき姿

#### (1) 現代の日本社会

- ・人口減少・高齢化、経済や産業のグローバル化、情報技術の革新等
- ・短期的利益を追及する経済活動と都市の持続的発展や環境等の課題
- ・都市再生は地球上のすべての国、地域で共通の課題である
- ・様々な人間像を包摂する人間主体の都市を取り戻す動きへ

#### (2) 都市と都市社会のあり方

##### これから望まれる都市と都市社会

- ・ウェルビーイングを育む都市
- ・誰ひとりもどの都市も取り残さない都市社会
- ・イノベーションが発現し、多様な産業が、協調・協働する都市へ
- ・自然・歴史・文化資源が都市インフラとなり個性が強化された都市へ

##### 都市・地域空間が目指すべき方向

- ① 自立的・持続的発展とエコロジカル・ネットワークやグリーンインフラが活かされた自律的かつ回復力のある都市空間
- ② 市民・行政・企業・学術組織など多様な主体による参画・協働
- ③ レジリエンスを兼ね備えた都市環境
- ④ 豊かな間（ま）と時（とき）を内包する、文化的・社会的価値に敬意を払う都市空間
- ⑤ 国土構造と調和した都市

#### (3) 都市計画の目指すべき基本的方向

- 方向 ①** 広域・狭域の各レベルの問題解決に対して、公共的な価値観を実現し、安定した都市社会を導くための技術・手法の実現
- 方向 ②** 都市づくりのルールや仕組みとして、都市計画における公共圏の拡大に根ざした社会的ルールの再構築
- 方向 ③** 開かれた都市計画の確立のために、プロセスを重視した都市づくり
- 方向 ④** 将来の世代、子、孫が成長し、生きていくために必要なレガシーをつくり残す

### 2 都市計画学の目指すべき姿

#### 人類共有の、“知”の財産へ

##### 目指すべき姿 ①

社会経済問題を調和的かつ創造的に解決する知。人間・自然双方にとってよりよい関係性を育む場所を備えた都市を実現するための知見の蓄積

##### 目指すべき姿 ②

小さな公共性と大きな公共性とのジレンマを調停する知。広域・国土計画や共通の課題を有する都市・地域間のネットワークの可能性の模索。

##### 目指すべき姿 ③

様々な時間軸での変化に対応する知。様々な分野で進む技術革新やリスクへの総合的な対応を具現化する規範的な都市像の探究

##### 目指すべき姿 ④

美的・精神的な要素まで含む複合体としての都市・都市計画のための知。人間の内面と外面を一体的に捉える科学としての都市計画学の追究

##### 目指すべき姿 ⑤

都市計画学の国際化の推進。地域の個性を尊重して育むことで国際協調に貢献する普遍理論とその実践

##### 目指すべき姿 ⑥

総合性と実践性による学術の先導。文と理や実践と理論を融合し、多様な価値観に寄り添う価値創造の場としての都市を計画・実現するための知を創出する学問体系の構築

### 3 都市計画学会の目指すべき姿

#### A 基本理念

- 1) 持続可能な豊かで活力のある都市・地域の形成に貢献する
- 2) 総合的で実践的である都市計画を学問として追求する
- 3) 都市計画をとりまく新たな環境を広く包容する
- 4) 都市計画における社会的・先導的役割を積極的に担う
- 5) 都市計画の「知」の拠点としての役割を果たす
- 6) 多くの人々にとって魅力ある学会を目指す

#### B 学会の目的と使命

##### 目的（定款第3条）

会員の研究発表、知識の交換、会員相互・内外の関連学協会等との連絡提携の場となり、都市計画に関する学術の進歩普及と都市計画の進展、及び都市計画に係る専門家の資質の向上を図り、もって学術・文化・社会の発展に寄与することを目的とする

##### 使命（倫理綱領）

各地域が有する固有の歴史、文化を尊重するとともに、都市計画がもつ公共性を認識し、都市をつくり又は育む多くの人々と連携して、自然環境と調和し、持続的に発展しうる都市の実現に貢献することを使命とする。

#### C 学会の行動目標

今よりも一層「開かれた」都市計画を目指し、あらゆる観点で「開かれた」都市計画・都市計画学会の実現を目指す

**場を開く**—「共創コミュニティ形成」

**知を開く**—「都市をテーマとした学会ネットワーク」

**術を開く**—「エビデンスを活かした政策提言」

**領域を開く**—「これからの社会を担う世代の活躍の場」

**世界を開く**—「会員による研究の国際評価向上」